

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26630274

研究課題名(和文) 持続可能な都市・地域デザインにおけるcommonsの導入条件とその方法に関する研究

研究課題名(英文) Study on the introduction of concept 'commons' in sustainable regional design method

研究代表者

槻橋 修 (TSUKIHASHI, Osamu)

神戸大学・工学研究科・准教授

研究者番号：50322037

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：近年環境学、経済学、などの領域で盛んに研究が行われる様になったcommons概念を、建築学の実践的計画学に導入し、研究代表者が平成24年6月より岩手県大槌町において支援活動を続けている模型WSによる記憶証言の収集と『(仮称)大槌メディアcommons(MLA)』での成果を元に、被災地における地域空間のcommons再生モデルの構築を目指した。集まった膨大な証言を実用データとしてまとめる為に時間を要したこと、また復興事業も町の方針の転換や計画の遅延等により研究方法を逐次修正を行った。他地域で試験的に行った模型ワークショップやその証言のデジタルアーカイブ化、その活用方法のモデル化を行った。

研究成果の概要(英文)：We have introduced the commons concept, which has been actively studied in the fields of environmental studies, economics, etc., to practical planning of architecture. And since we have been working as a researcher in Otsuchi Town, Iwate prefecture, based on the collection of memory testimony by model WS which is continuing support activities in Project Otsuchi Media Commons (MLA), we aimed to construct a commons regeneration model in the disaster area. We revised our research method due to the fact that it took time to compile the massive testimony gathered as practical data and of the town changed the policy the reconstruction project and delayed plan. We made a digital archive of model workshops and testimonies made experimentally in other areas and modeled how to utilize them.

研究分野：建築計画学

キーワード：commons 東日本大震災 記憶 まちづくり 復元モデル ワークショップ

1. 研究開始当初の背景

(1) 東日本大震災から2年半が経過し、被災地では復旧工事が平成27年度の復興交付金事業の完了を目指して進められ、地域住民らは事業完了次第、随時移転先での生活をはじめの見通しであった。しかし、今回津波によって広範囲に被災した地域では、復旧・移転後から新たな地域空間で生活を始めなければならず、被災前に地域社会が育んできた社会関係資本(ソーシャルキャピタル)の再構築に関する戦略を立てている地域は多いとは言えなかった。地域空間はそこに信頼関係や規範、ネットワークなどの社会組織が形成されて初めて人々の生活が充足するのであり、そのためには被災前に存在していた地域のcommonsの回復も併せて進められる必要があると考えられた。

(2) 特に研究代表者が平成24年6月より岩手県大槌町において支援活動を続けている『「失われた街」模型復元プロジェクト』と『(仮称)大槌メディアcommons(MLA)基本構想策定』でのプロセスと成果を元に、被災地における地域空間のcommons再生モデルを構築し、現地でのヒアリング、ワークショップの結果を踏まえてモデルの有効性を検証する。持続可能な社会インフラとしての公共空間の創出とそれを維持するための施策、財源の新たな仕組みの開発へつなげていくためのプロトタイプとしての意義があると考えた。

2. 研究の目的

(1) 近年環境学、経済学、政治学、法学、社会学などの領域で盛んに研究が行われるようになったcommons概念を、建築学・市民工学の実践的計画学に導入し、公/民のみならず多様な主体が重層的に地域空間を維持・更新していくことのできるような都市・地域デザインの成立条件とその方法論について明らかにすることを目的とした。

(2) commonsを導入した地域デザイン手法の確立は、住まいと公共空間を大規模にかつ同時に復興させなければならない被災地で、多様な主体とその重層的ガバナンスが計画段階から明示的に現れるため、一般的な都市や地域でのcommons研究に比べて多くの知見が得られることが期待される。またcommonsの本質的な特徴である維持・更新のしくみをモデル化することにより、持続的な都市・地域デザインに不可欠な条件の体系化に有意義な成果が得られることが期待された。

3. 研究の方法

(1) 被災地における地域資源・commonsに対する調査初年度となる平成26年度は、現地調査、及び住民に対するヒアリング・アンケートを通じ、対象地域における、地域空間・地域産業・地域社会・自然環境などの

地域資源について顕在化と整理を行い、地域におけるcommonsの概観・把握を行う。
(2) 同調査活動により得られた地域資源に関する知見をもとに、インターネット上に「大槌町・commons・アーカイブ」を設計・WEBページとしての開設を準備する。

(3) 現地調査・住民参加型ワークショップの開催初年度での調査活動・情報整理を通して顕在化された不明部分について、補足的な追加調査を行う。加えて、住民参加型ワークショップの開催を通じ、地域におけるcommonsの知識について地域内での共有を図るとともに、(仮称)大槌メディアcommons(MLA)の地域での運用モデルと、モニタリングおよび評価方法を構築する。

(4) シンポジウム開催(年間1回、準備1回)commons分野での専門家を現地に招き、地域デザインのモデル評価をテーマにしたシンポジウムを開催する。

(5) その他の地域でのcommons調査・commons設計に関する事例研究を行いつつ、大槌町におけるcommonsの保全・継承、あるいは活用・発展に向けた、(仮称)大槌町メディアcommons(MLA)を軸とした地域デザインのモデルに関して設計を行う。

(6) WEB commons・アーカイブシステムの発展commons・アーカイブにおいてワークショップ結果、モデル構築結果を反映するとともに、継続的な更新システムの検討を行う。

4. 研究成果

2014年度

2014年度は東日本大震災にて大きな被害を受けた岩手県大槌町において、地域再生とcommonsの導入条件の概要に関して調査を行い、専門家から意見をうかがうと共にディスカッションを行った。具体的には2015年1月に神戸市において「commonsの再生による新しい地域再生モデルを目指して」と題したシンポジウムを開催した。東日本大震災からまもなく4年を迎え、国が定めた集約的復興期間の5年間も残り1年あまりとなった大槌町において、防潮堤建設や土地の嵩上げ、住宅再建など、取り組むべき課題は山積し、複雑に絡み合い、被災地に暮らす人々にとって復興への実感を得られない日々が続いており、また、復興後には人口減少のみならず街の姿も大きな変容が余儀なくされる中で、地域コミュニティを再生していくためには、その土地に長く培われてきた有形無形の共有資源(=ローカル・commons)の再生が極めて重要になってくる。こうした問題意識のもと、このシンポジウムでは、岩手県大槌町の復興現場におけるローカル・commons再生の取り組みを事例として取り上げ、民族学、計画学、政策理論、復興まちづくり等の観点からローカル・commonsの再生による新しい地域再生モデルについて討論を行った。特に震災以後現地にて活動する団体代表者へのヒアリングによ



岩手県大槌町 復興まちづくり 復興まちづくり 復興まちづくり 復興まちづくり 復興まちづくり 復興まちづくり 復興まちづくり 復興まちづくり 復興まちづくり 復興まちづくり

シンポジウム

被災地におけるローカル・コモンスの再生

～岩手県大槌町における復興過程から～

- ＜プログラム＞
- 高橋 秋道智彌 (総合地球環境学研究所 名誉教授/生協人理事)
- 高橋 繁見哲也 (大槌大学工学部建築学科 土木・環境専攻教授/盛岡大学)
- 高橋 池ノ谷伸吾 (一般社団法人 RING PROJECT 代表/大槌町)
- 高橋 小池淳司 (神戸大学大学院工学研究科 防災工学専攻教授/土木学部)
- 高橋 山崎寿一 (神戸大学大学院工学研究科 建築学専攻教授/設計計画)
- 高橋 井料隆雅 (神戸大学大学院工学研究科 防災工学専攻教授/土木学部)
- 高橋 小池淳司
- 高橋 櫻橋修 (神戸大学大学院工学研究科 建築学専攻教授/建築デザイン)

＜日時＞
1月10日[土]
13:30>16:00

＜会場＞
KIITO
デザイン・クリエイティブセンター神戸303号室
高橋ビル(中央地区小売商業1-4)

＜問い合わせ＞
神戸大学大学院工学研究科建築学専攻(復興・震災) 電話:078-320-5022
〒650-8015 神戸市中央区南長狭通4丁目1-4 高橋ビル303号室
〒650-8015 神戸市中央区南長狭通4丁目1-4 高橋ビル303号室
URL: http://www.kiito.or.jp/

って、復興事業で振興している地域再生策と地域コミュニティの意識のずれが明確になり、このずれを解消する概念ツールとしてのローカル・コモンスの可能性について議論が行われた。

2015年度
大槌町中心市街地である町方地区に隣接する安渡地区における復元模型ワークショップを行うとともに、その地域で活発に行われていた地域の伝統芸能の復興過程などを主題としたシンポジウムを大槌町で開催した。

また既に町方地区において収集済みであった街の記憶に関しては、これまでの模型上への記憶証言(つぶやき・旗)のプロットに加えてワークショップ中に参加者から要望を受けて追加制作する景観要素を「作り込み」として位置付け新たに分類方法を考案して追加情報とした。また「作り込み」情報と記憶証言(つぶやき・旗)の相関関係の分析を通して地域のローカルコモンスの顕在化手法について検討を行った。

しかし、模型ワークショップの実施自体が時間をとることに加え、集まった膨大な証言を研究成果としてまとめる十分な時間を確保できなかったこと、そして、復興事業も集中復興期間の最終5年目を迎える中で、街の復興が実感できるまで実態が変わっていないことから、地域の文化的共有資源としてのローカルコモンスをどのように地域に実装していくかという手法についてはさらなる検討が必要であると思われた。そうした問題も考慮しながら、現地の復興状況や住民の関心時に合わせて、研究方法を逐次修正していく必要性も明らかになった。

第2回シンポジウム
被災地におけるローカル・コモンスの再生
～岩手県大槌町の自然と伝統文化～



予約不要 参加無料
大槌町の復元模型の展示も行います!

＜プログラム/シンポジウムの内容＞
基調講演:「大槌の未来を自然と文化から探る」
秋道 智彌 (総合地球環境学研究所 名誉教授/生協人理事)
伝統芸能実演:「宮ひ虎」「熊ね虎」「世囃み」「碁碁」
大槌虎舞協議会
話題提供1:「大槌の郷土芸能、それでも前へ進む」
橋本 裕之 (工学部地域環境創造学部 教授/長野学・造園学)
話題提供2:「大槌学のすゝめ」
佐々木 健 (大槌町議会議長/「大槌学のすゝめ」執筆)

＜会場＞
大槌町中央公民館
岩手県上野原町大槌町小槌第2地番126

＜お問い合わせ＞
神戸大学大学院工学研究科建築学専攻(復興・震災) 電話:078-320-5022
〒650-8015 神戸市中央区南長狭通4丁目1-4 高橋ビル303号室
〒650-8015 神戸市中央区南長狭通4丁目1-4 高橋ビル303号室
URL: http://www.kiito.or.jp/

「失われた街」模型復元プロジェクト

巡回する会場にて、町方・安渡の復元模型を展示します。

ふるさと
大槌・安渡の記憶
教えてください。

記憶の街ワークショップ in 大槌町 安渡地区
津波によって一瞬にして失われたふるさと。震災前の街を白い模型で復元しました。この模型に皆様と共に着彩してゆき、ふるさとの記憶を辿ることで、鮮やかな「記憶の街」を作り上げてゆけます。模型にかつての街の記憶がよみがえっていく姿是非ご覧ください。

7月26日(日) マスト2階 マストホール 時間 10:00~18:00

7月27日(月) 7月31日(金) 安渡公民館 時間 10:00~18:00

参加無料 閲覧自由

シンポジウム
8月1日(土) 『被災地におけるローカル・コモンスの再生』
大槌町中央公民館
～岩手県大槌町の自然と伝統文化～
時間 13:30~16:00(予定) 開催

こちらもお気軽にご参加下さい!

町方地区に加え、模型がさらに大きくなりました
2012年6月の記憶の街ワークショップ以来、復興館で展示させていただいた町方地区に加え、今回は安渡地区の製作を行いました。
5m×3mの大型模型で復元されたふるさとの街並みをご覧ください。

主催 「失われた街」模型復元プロジェクト
後援 大槌町教育委員会
協力 一般社団法人おぶさ大槌夢広場復興館
企画制作 神戸大学 復興研究室
お問合せ 神戸大学 小池 淳司 050-3170-0692

2016年度
2016年度は大槌町町方地区において開催したワークショップで収集済みであった街の記憶に関しては、これまでの模型上への記憶証言(つぶやき・旗)のプロットに加えてワークショップ中に参加者から要望を受けて追加制作する景観要素を「作り込み」として位置づけ、新たに分類方法を考案して追加情報とした。これまで収集された記憶証言を位置情報とあわせて地理情報システム(Arc-GIS)上に一元化する試みを行い、ま

たWEBアプリケーション上での統合的検索方法の検討を行った。

2017年度

2017年度は収集された記憶証言を位置情報とあわせて地理情報システム(Arc-GIS)上に一元化する方法を完成させ、「作り込み」情報の統合方法についても検討を行い、WEBアプリケーション上での統合的検索方法の開発を検討した。

なお、研究当初研究代表者が支援し大槌町で進められていた『(仮称)大槌メディア commons(MLA)』は基本計画を経て実施の段階に入り町の方針の転換によってメディア commons(MLA)という施設のコンセプトは失われたものの、計画より2年遅れて2018年6月「大槌町文化交流センター」として開館した。大槌町町方地区の復元模型は同館展示室に震災前の街並みを伝えるメディアとして展示されることとなった。本研究において集められた記憶証言等からなるローカル・commonsにかかる情報等を現地にどのように実装し、今後のまちづくりに生かして行くことが出来るかについては今後の課題である。しかし、本研究過程で他地域において試験的に行った模型ワークショップやその証言のデジタルアーカイブ化についての成果を、当該地区の展示空間で活用できるような仕組みを今後も町と連携して検討していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

磯村和樹、槻橋修、友淵貴之「津波被災地域における復元模型を用いた地域空間情報保存手法に関する研究」日本建築学会技術報告集第52号, pp1173-1176, 2016年10月〔学会発表〕(計件)

〔その他〕(計1件)

ワークショップ・展覧会等(新聞・テレビ含)

槻橋修、他「記憶の街ワークショップ for 富岡」(東北復興新聞 2015年7月3日、【明日へ 支えあおう】「ふるさとの記憶～福島県・富岡町～」(NHK総合・2015/8/23放送))

槻橋修、他「記憶の街ワークショップ for 双葉」(2015年12月/双葉町と共催)

槻橋修、他「記憶の街ワークショップ for 大熊」(「東北Z 未来へつなく 模型のまち～ふるさとの記憶 福島～」NHK総合(東北地方のみ放送)2016年2月19日(金) 20:00～20:43)

槻橋修、他「記憶の街ワークショップ in 新地町」(福島民報 2016年01月17日)

槻橋修、他「ふるさとの記憶 ふくしま特

別展」(2016年3月、NHK福島放送局と共催)
槻橋修、他「辻川界隈の街並みジオラマ模型ワークショップ」(神戸新聞 NEXT 2015年10月30日、毎日新聞 2015年11月6日 地方版)

槻橋修、他「失われた街」模型復元プロジェクト (建築と社会<日本の「建築と社会を繋ぐ」プロジェクト 100> 2017年3月号 20頁)

槻橋修、他「記憶の街ワークショップ in 鶴住居」(復興釜石新聞 2016年9月24日発行 第523号)

槻橋修、他大川地区「記憶の街」模型復元プロジェクト(河北新報 2017年03月13日、NHK総合テレビ(東北地方)「クローズアップ東北」 2017年03月17日)

ホームページ等

<http://losthomes.jp>
(模型復元プロジェクト HP)

<http://lostcity.archiving.jp>
(記憶の街アーカイブ石巻市大川地区)

6. 研究組織

(1)研究代表者

槻橋修 (TSUKIHASHI, Osamu)
神戸大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号: 50322037

(2)研究分担者

山崎寿一 (YAMAZAKI, Juichi)
神戸大学・大学院工学研究科・教授
研究者番号: 20191265

小池淳司 (KOIKE, Atsushi)

神戸大学・大学院工学研究科・教授
研究者番号: 60262747

井料隆雅 (IRYO, Takamasa)

神戸大学・大学院工学研究科・教授
研究者番号: 10362758